

□主な内容

【第 11 回 EST 交通環境大賞の応募を受付中！】

地域の交通環境対策に関する優れた取組みの応募を 2020 年 1 月 9 日まで受付中です。

<http://www.estfukyu.jp/kotsukankyotaisho2019.html>

【第 12 回アジア EST 地域フォーラムの結果について】

環境省は、アジア地域における EST の実現に向けたハイレベルによる政策対話の場として、ハノイにおいて UNCRD 等とともに「第 12 回アジア EST 地域フォーラム」を開催しました。

<http://www.env.go.jp/press/107351.html>

□目次

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 160 回)

- 「自家用車の運転に「過度に依存しない」社会の構築に求められる公共交通網の形成」

【福島大学 経済経営学類 准教授 吉田 樹】

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 160 回)

- 「災害時の交通情報提供 ～災害発生後の交通混乱下での情報提供で必要となることは何か？～」

【呉工業高等専門学校 環境都市工学分野 教授 神田 佑亮】

3. ニュース／トピックス

- 第 11 回 EST 交通環境大賞の応募を受付中！【EST 普及推進委員会】
- 「2019 年度エコドライブ活動コンクール」の結果を発表しました【エコモ財団】
- 第 12 回アジア EST 地域フォーラムの結果について【環境省】
- 「低炭素社会国際研究ネットワーク(LCS-RNet)」第 11 回年次会合の開催結果について【環境省】
- 米国テキサス州における高速鉄道事業への JOIN による資金拠出を認可～日本の新幹線システム導入への後押しを図ります～【国土交通省】
- 規制のサンドボックス制度に係る実証計画を認定しました【経済産業省】
- 駅における車椅子使用者が単独乗降可能なプラットフォームの整備やウェブアクセシビリティの確保を推進します！ ～公共交通機関のバリアフリー整備ガイドラインを改訂～【国土交通省】

- 第1次ナショナルサイクルルートを指定しました！ ～日本を代表し、世界に誇りうるサイクリングルートが本格始動～【国土交通省】
- 高速バスで貨客混載 ～空きスペース活用で、人も貨物も運びます～【国土交通省】
- 広がってます、グリーン物流の輪 ～グリーン物流パートナーシップ会議で優れた取組を表彰～【国土交通省】
- 11月はエコドライブ推進月間です！！ ～地球と財布にやさしいエコドライブを始めよう～【国土交通省】
- 分散型エネルギーシステムの有用性と水素利用の将来展望について講演 ～北海道水素地域づくりプラットフォーム令和元年度会合を旭川にて開催～【国土交通省】
- エコ・ファースト制度における新規認定申請募集について【環境省】
- 令和元年度グリーン物流パートナーシップ会議を開催します【経済産業省】
- 広島県庄原市で MaaS モデル事業の「第二弾」実証実験を開始！ ～AI デマンドバスと路線バスの「定額乗り放題サービス」を提供～【中国運輸局】
- 鳥根県大田市で「過疎地型 Rural MaaS 事業」がスタート！ ～AI を活用した「タクシーの定額乗り放題」による地域住民の移動手段確保～【中国運輸局】
- 「とほ活」ははじめました ～歩きたくなるまちづくりについて～【富山市】
- 地下鉄の各種乗車券が「LINE Pay」等で購入できるようになりました【福岡市】
- 令和元年度「Tokyo スイソ推進チーム」運営会議(第1回)の開催について【東京都】
- 射水市、高岡市、氷見市との観光型 MaaS に向けた実証実験の開始について【駅探】
- 低速モビリティを利活用した MaaS の実現に向けた共同の取り組みを開始【ヤマハ発動機】
- 新たな都市型交通「IKEBUS」の運行を開始 真っ赤でかわいい池袋の新たなシンボル ゆっくりと走る車両は乗る人にとってオンリーワンの空間に【WILLER】
- 「グリーンスローモビリティ」等を活用した実証実験を開始【京急電鉄】
- パーク&ライド実証実験の結果を鑑み、高速船を継続運航します【第一マリンサービス】
- 札幌市における地域経済の活性化に向けたモビリティ向上について ～「さっぽろ観光あいのりタクシー」の実施～【NTT】
- 浦和美園駅前にてスクーターシェアリング実証開始【UDCMi】
- EV 駆動用バッテリーのリユース技術を活用したバーチャルパワープラント実証試験について【中国電力株式会社】
- 期限前償還条項付無担保社債(グリーンボンド)の発行に関するお知らせ【群馬銀行】
- タイにおける環境・リサイクル事業を大幅に拡充【DOWA エコシステム】
- EV スマート充電サービスの提供に向けて Driivz、日東工業と協業開始【エネット】
- フランス環境エネルギー管理庁と公的投資銀行、グリーンエネルギー部門の成長を支援【フランス 環境エネルギー管理庁】
- アメリカ環境保護庁、貨物運送業における燃費改善と排出削減を表彰【アメリカ環境保護庁】

4. イベント情報

- 自動車環境セミナー ～次世代に向けたクルマの在り方を考える～【2019/12/4】
- エコプロ2019 ～持続可能な社会の実現に向けて～【2019/12/5-7】
- スマートモビリティチャレンジ 地域シンポジウム【2019/12/10, 2020/1/21,24,31】
- グリーン・イノベーション 研究成果企業化促進フォーラム【2019/12/11】
- 第17回 ITS シンポジウム2019【2019/12/12-13】
- JAF エコドライブ運転実技講習会 広島会場【2019/12/14】
- 第17回アジア太平洋地域 ITS フォーラムブリスベン2020【2020/5/25-28】

5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
- 電動小型低速車に関する情報を掲載しています！
- 「運輸・交通と環境」を発行しています！
- 記事募集中！

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 160 回)

●「自家用車の運転に「過度に依存しない」社会の構築に求められる公共交通網の形成」

【福島大学 経済経営学類 准教授 吉田 樹】

この秋は、台風 15 号、19 号の相次ぐ上陸で、各地に甚大な被害をもたらした。これまで台風被害が少ないとされてきた東北地方の太平洋側でも、浸水被害が相次ぎ、東日本大震災以来となる応急仮設住宅が整備される自治体もある。「極端な気候」が目につくようになった昨今、自家用車の運転に「過度に依存しない」社会の構築を真剣に考えなければならぬ。

各地で策定が進む地域公共交通網形成計画は、鉄道駅やバス停留所から離れた地域を「鳥瞰図」で眺め、いわばセーフティネットの移動手段を確保することに力点が置かれることが多い。一方で、既存の公共交通サービスは「効率化」や「現状維持」が前提とされ、「品質」を見直す取り組みは少ない。筆者が携わる青森県八戸市は、バス路線網の「幹線軸」を計画に定め、系統や事業者を問わず、高頻度・等間隔運行(平日昼間 10~20 分間隔)を実現している。そのうえで、2011 年 10 月からは、市内のバス運賃を上限 300 円とする運賃低廉化施策を実施したが、「幹線軸」に位置づけられた路線群は、利用者数が総じて増加した半面、一時時間に 1 往復にも満たない区間は、運賃を廉価にしても、集客に結びつかないケースもあった。さらに、「幹線軸」の沿線は、それ以外の地域と比べて、通勤・通学時のバス分担率は 1.5 倍と高く(2010 年国勢調査の 1/2 メッシュ(一辺が約 500m)集計に基づき、「幹線軸」の停留所から直線距離で 200m 以内に含まれるメッシュを「幹線軸」沿線と定義)、自家用車の運転に「過度に依存しない」地域を目指すには、「品質」を保証した公共交通網の「軸」を形成することが有効である。

ところで、最近では、MaaS(Mobility-as-a-Service)に注目が集まり、利用者の需要にあわせて配車する「オンデマンド交通」の実証運行が都市部でも取り組まれるようになった。セーフティネットの移動手段として、自家用車の運転に「過度に依存しない」選択肢を与え得る点で期待されるが、乗り合わせが多く発生する「軸」の公共交通利用者が「オンデマンド交通」に転換するのでは、かえって車両台数が増加し、「環境的に持続可能な交通」の実現とは相反する結果になる可能性がある。公共交通網の「軸」と、セーフティネットの移動サービスとの間でどのような秩序を創りだすかが、これからの公共交通政策に求められる。

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 160 回)

●「災害時の交通情報提供 ～災害発生後の交通混乱下での情報提供で必要となることは何か？～」

【呉工業高等専門学校 環境都市工学分野 教授 神田 佑亮】

平成 30 年 7 月豪雨により、広島市と呉市間の自動車専用道(広島呉道路)と鉄道(JR 呉線)が寸断され、深刻な影響が約 3 ヶ月続きました。「災害時 BRT」により、両都市間の輸送は確保されましたが、一方で、この臨時交通サービスをどう伝えていくかが大きな課題の 1 つでした。渋滞削減のために、「災害時 BRT が結構早くて使える」こと、災害による観光面での経済被害を抑制するには、「呉まで公共交通でいける」ということも伝える必要がありました。さらに、頻繁に変わる輸送体系にも対応する必要がありました。

理想は平常時に使う路線検索サービス・アプリや地図アプリで「災害時 BRT」等の臨時的公共交通輸送も含めたダイヤが表示され、バスロケも機能することでしたが、実現には相当の課題がありました。

必要とされる情報をどのように提供するか？そして短期間で実現していくか？被災地・広島と東京・大阪・島根と密に議論を重ね、災害対応型情報システム(d-TRIP)を構築しました。

- ① 「災害時地域公共交通情報ホームページ構築」
臨時輸送サービスを含めた輸送体系とダイヤがわかるポータルサイトを構築
- ② 「路線検索サイトと連携した災害時運行情報提供」
呉線各駅を出発地・目的地とした経路検索時に、①にリンクする案内を表示
- ③ 「バス運行実績情報の提供」
広島～呉間の都市間バスの到着時刻、座席の満空の実績を公表
- ④ 「バス走行位置情報の提供」
渋滞による遅れが著しいバス路線で走行位置を表示するシステムを緊急開発し、実装

所要時間を要するのか読めないためダイヤを出しにくいのであれば、昨日はどうだったのか？いまどこを走っているか？これらの情報を出すことで、利用者の方々の移動を支え、ストレスの低下にもつながると考え、構築しました。災害時には「実績」が特に重宝されます。ヒントとなったのはアメリカの航空会社の Web サイト。便ごとに遅延・欠航の発生実績を提示しています。

なお、去年の経験から現在広島地区で取り組んでいることの 1 つは標準的なバス情報フォーマット(GTFS-JP)の導入。災害時に共通フォーマットでデータを作成できるならば、路線検索サービス等での表示も迅速化します。災害での経験を機に、情報の加工・発信・エンドユーザーへの情報提供の仕組みと役割分担を考え、今後の災害発生後の経済被害を抑制していかなければなりません。

3. ニュース／トピックス

●第 11 回 EST 交通環境大賞の応募を受付中！【EST 普及推進委員会】

EST 普及推進委員会及びエコモ財団では、地域の交通環境対策に関する取組み事例を発掘し、優れた取組みの功績や努力を表彰する EST 交通環境大賞の応募を受け付けています。以下のウェブページをご覧ください、全国各地で交通環境対策に取り組まれている自治体、企業、市民団体等の皆様が応募されることを期待しています。

<http://www.estfukyu.jp/kotsukankyotaisho2019.html>

●「2019 年度エコドライブ活動コンクール」の結果を発表しました【エコモ財団】

5 月 7 日～7 月 1 日に募集した「2019 年度エコドライブ活動コンクール」(主催:エコモ財団、後援:エコドライブ普及連絡会、エコドライブ普及推進協議会)に、375 件、1,041 事業所より応募を頂きました。審査委員会(審査委員長:大聖 泰弘/早稲田大学研究院次世代自動車研究機構研究所顧問)で、国土交通大臣賞に茨城流通サービス株式会社(事業部門)、環境大臣賞にネットヨタ山形株式会社(一般部門)のほか、優秀賞 6 件、優良賞 26 件、審査委員長特別賞 2 件が選考されました。また、一定レベル以上の活動をしていると評価された事業者 42 件には、「エコドライブ優良活動認定証」が授与されました。

<http://www.ecodrive.jp/data/ecodrive-activity-concours2019.pdf>

●第 12 回アジア EST 地域フォーラムの結果について【環境省】

環境省は、アジア地域における環境的に持続可能な交通(EST)の実現に向けて、ハイレベルによる政策対話の場として、令和元年 10 月 28 日(月)～31 日(木)に、ベトナム国・ハノイにおいて、国際連合地域開発センター(UNCRD)等とともに「第 12 回アジア EST 地域フォーラム」を開催し、我が国からは、八木哲也環境大臣政務官等が出席しました。会合では、我が国から SDGs や脱炭素化に統合的に取り組むことなど、2030 年に向けた EST のあり方について提案を行い、各国の賛同を得ました。

<http://www.env.go.jp/press/107351.html>

●「低炭素社会国際研究ネットワーク(LCS-RNet)」第 11 回年次会合の開催結果について【環境省】

平成 20 年の G8 環境大臣会合において、我が国が提案し設立された「低炭素社会国際研究ネットワーク(LCS-RNet)」の第 11 回年次会合が、令和元年 10 月 17 日～18 日、イタリア・ローマ市にて開催されました。13 か国、欧州連合、4 国際機関から 61 名が出席しました。会合では、脱炭素社会の実現に向けて、各国・国際機関で展開されている施策や研究事例の発表及び討議が行われました。脱炭素化に向けた多角的なイノベーションにより、数年前には想定されなかった様々なオプションへの期待の高まりが見られました。また、さらにイノバ

ーションを促進するために、開発研究に関する官民の投資拡大、他国のニーズに適した技術支援と能力開発、雇用機会の創出等についての必要性を指摘する意見が多数ありました。さらに、支援国・機関、被支援国双方の関係者のネットワーキングを深める重要性について認識を共有しました。

<http://www.env.go.jp/press/107411.html>

●米国テキサス州における高速鉄道事業への JOIN による資金拠出を認可 ～日本の新幹線システム導入への後押しを図ります～【国土交通省】

国土交通大臣は、(株)海外交通・都市開発事業支援機構(JOIN)が、米国テキサス高速鉄道事業を支援するための資金拠出(約21億円)を行うことについて、認可を行いました。本支援を通して、日本の新幹線システムを活用した本事業の実現を大きく後押しする効果が期待されます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo05_hh_000210.html

●規制のサンドボックス制度に係る実証計画を認定しました【経済産業省】

生産性向上特別措置法(平成30年6月6日施行)に基づき、新しい技術やビジネスモデルを用いた事業活動を促進するため、「新技術等実証制度」(いわゆる「規制のサンドボックス制度」)が創設されました。本制度は、参加者や期間を限定すること等により、既存の規制の適用を受けることなく、新しい技術等の実証を行うことができる環境を整えることで、迅速な実証を可能とするとともに、実証で得られた情報・資料を活用できるようにして、規制改革を推進する制度です。

経済産業省認定案件として、キャンピングカーの「空間」の活用に関する実証、電動キックボードのシェアリング実証(2件)、ハイブリッドバイクの公道走行実証の、合計4件の実証計画を新たに認定しました。

<https://www.meti.go.jp/press/2019/10/20191017001/20191017001.html>

●駅における車椅子使用者が単独乗降可能なプラットホームの整備やウェブアクセシビリティの確保を推進します！ ～公共交通機関のバリアフリー整備ガイドラインを改訂～【国土交通省】

国土交通省は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、更なるバリアフリー化を進めるため、「公共交通機関の移動等円滑化整備ガイドライン(旅客施設編・車両等編)」を改訂しました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo09_hh_000215.html

●第1次ナショナルサイクルルート指定しました！ ～日本を代表し、世界に誇りうるサイクリングルートが本格始動～【国土交通省】

日本を代表し、世界に誇りうるサイクリングルートについて、国内外にPRを図るため、第1次ナショナルサイクルルートの指定が行われました。あわせて、ナショナルサイクルルートのブランディングを図るため公募を行った、ルート上やポータルサイト等で使用するロゴマークが決定しました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_001255.html

●高速バスで貨客混載 ～空きスペース活用で、人も貨物も運びます～【国土交通省】

国土交通省は、伊予鉄バス株式会社と伊予鉄南予バス株式会社が、愛媛県八幡浜市で生産されている果物や水産加工品を、高速バスの空きスペースを利用し運ぶ貨客混載について、総合効率化計画を認定しました。全国で旅客鉄道やバス、タクシーの空きスペースを活用した貨客混載が徐々に広まっているところですが、高速バスを利用した貨客混載輸送は、総合効率化計画として、全国初の認定となります。

http://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01_hh_000474.html

●広がってます、グリーン物流の輪 ～グリーン物流パートナーシップ会議で優れた取組を表彰～【国土交通省】

国土交通省、経済産業省、公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会及び一般社団法人日本物流団体連合会は、本年12月13日(金)に日経カンファレンスルームにて「令和元年度グリーン物流パートナーシップ会議」を開催します。持続可能な物流体系の構築に顕著な功績があった事業者に対する大臣表彰等の各種表彰及び受賞事業者による表彰事例の紹介を行います。

http://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01_hh_000476.html

●11月はエコドライブ推進月間です！！ ～地球と財布にやさしいエコドライブを始めよう～【国土交通省】

警察庁、経済産業省、国土交通省及び環境省で構成するエコドライブ普及連絡会では、11月を「エコドライブ推進月間」として、エコドライブの普及・推進を図っています。

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10_hh_000205.html

●分散型エネルギーシステムの有用性と水素利用の将来展望について講演 ～北海道水素地域づくりプラットフォーム令和元年度会合を旭川にて開催～【国土交通省】

国土交通省北海道局及び北海道開発局は、令和元年11月25日(月)に旭川市において、「北海道水素地域づくりプラットフォーム令和元年度会合」を開催し、分散型エネルギーシステムの有用性と脱炭素化に向けた水素利用の将来展望や、エネルギーの地産地消の取組が地域にもたらす効果などについて、講演や意見交換を行いました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/hok07_hh_000138.html

●エコ・ファースト制度における新規認定申請募集について【環境省】

環境省では、企業が環境の分野において、「先進的、独自のでかつ業界をリードするような事業活動」を行っている企業であることを、環境大臣が認定する「エコ・ファースト制度」における新規認定申請について、令和元年11月1日(金)～30日(土)の1ヶ月間、募集します。

<http://www.env.go.jp/press/107340.html>

●令和元年度グリーン物流パートナーシップ会議を開催します【経済産業省】

経済産業省、国土交通省、公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会及び一般社団法人日本物流団体連合会は、2019年12月13日(金)に日経カンファレンスルームにて「令和元年度グリーン物流パートナーシップ会議」を開催します。会議では、物流分野における環境負荷の低減や物流の生産性向上等により、持続可能な物流体系の構築に顕著な功績があった事業者の表彰を行うほか、受賞事業者による表彰事例の紹介を行います。

<https://www.meti.go.jp/press/2019/11/20191108004/20191108004.html>

●広島県庄原市で MaaS モデル事業の「第二弾」実証実験を開始！ ～AI デマンドバスと路線バスの「定額乗り放題サービス」を提供～【中国運輸局】

国土交通省では、MaaS 等の新たなモビリティサービスの推進を支援する「新モビリティサービス事業」について、先駆的な取組を行う「先行モデル事業」として今年度19事業を選定しました。このうち、中国運輸局管内で選定された「広島県庄原市」において、10月5日～10月27日に実施した「観光 MaaS プロジェクト」に引き続き、実証実験の第二弾として「地域生活交通 MaaS プロジェクト」を11月1日(金)から開始しました。

http://www.tb.mlit.go.jp/chugoku/release/00001_00002.html

●島根県大田市で「過疎地型 Rural MaaS 事業」がスタート！ ～AI を活用した「タクシーの定額乗り放題」による地域住民の移動手段確保～【中国運輸局】

国土交通省では、MaaS 等の新たなモビリティサービスの推進を支援する「新モビリティサービス事業」について、事業の熟度が高く全国の牽引役となる先駆的な取組を行う「先行モデル事業」として今年度19事業を選定しました。このうち、中国運輸局管内で選定された島根県大田市における「定額タクシーを中心とした過疎地型 Rural MaaS 実証実験」が11月12日(火)から始まりました。

http://www.tb.mlit.go.jp/chugoku/release/00001_00306.html

●「とほ活」はじめました ～歩きたくなるまちづくりについて～【富山市】

富山市では、日常的に歩いて暮らすことにより、健康増進やまちの賑わいづくりなどにつなげ、いつまでも健康で、幸せに暮らせる、住みよいまちづくりを推進することとしています。

「とほ活」は、富山で歩く生活をする事です。そして、皆さんの歩きたくなる生活を少しでも後押しすることで、たくさんの“富”をもたらしてくれる言葉です。歩くことや公共交通の利用、イ

イベントへの参加等に応じてポイントが付与される、「とほ活」を推進する富山市公式のスマートフォンアプリも、11月1日から運用開始しました。

http://www.city.toyama.toyama.jp/katsuryokutoshisouzoubu/katsuryoku/walkablecity_2.html

●地下鉄の各種乗車券が「LINE Pay」等で購入できるようになりました【福岡市】

福岡市交通局では、インバウンド需要が高まっていることや、本市においても二次元バーコード決済等キャッシュレス決済が普及してきている中、さらなるお客様サービス向上のため、地下鉄の定期券うりばで各種乗車券(定期券を除く)をご購入の際に、「LINE Pay」等の決済手段でご購入いただけるサービスを開始しました。

<https://subway.city.fukuoka.lg.jp/topics/detail.php?id=907>

●令和元年度「Tokyo スイッチ推進チーム」運営会議(第1回)の開催について【東京都】

東京都では、水素エネルギーの普及に向け、官民一体によるムーブメントを醸成すべく、平成29年11月1日に民間企業や都内自治体等と共に「Tokyo スイッチ推進チーム」を発足いたしました。このたび、令和元年度「Tokyo スイッチ推進チーム」運営会議(第1回)を開催しました。

<http://www.metro.tokyo.jp/tosei/hodohappyo/press/2019/11/12/08.html>

●射水市、高岡市、氷見市との観光型 MaaS に向けた実証実験の開始について【駅探】

乗り換え案内/時刻表/地図を中心とした行動支援サービス(ナビゲーションサービス)を提供している株式会社駅探は、富山県射水市、高岡市、氷見市の各観光協会と将来の観光型 MaaS 等の新たなサービスを見据え、観光モデルコースを提供するサービスについて実証実験を行なうことで合意しました。

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/3646/tdnet/1754631/00.pdf>

●低速モビリティを利活用した MaaS の実現に向けた共同の取り組みを開始【ヤマハ発動機】

ヤマハ発動機株式会社、三井住友海上火災保険株式会社および MS & AD インターリスク総研株式会社の三社は、低速モビリティの実証実験や公道走行時のリスクマネジメントに関する協定の締結に合意しました。

三社は、本協定を通じて、ランドカーを利活用した MaaS の実現に向けた共同の取り組みを開始します。具体的には、ヤマハ発動機が島根県雲南市で実施するランドカーの実証実験において、それら特有の保険・リスクマネジメントの研究・開発に取り組むことで、高齢者の移動手段の確保等、地方自治体が抱える社会課題の解決を目指します。

<https://global.yamaha-motor.com/jp/news/2019/1028/maas.html>

●新たな都市型交通「IKEBUS」の運行を開始 真っ赤でかわいい池袋の新たなシンボル ゆっくりと走る車両は乗る人にとってオンリーワンの空間に【WILLER】

WILLERは、駅・公園・「Hareza 池袋」をはじめとする商業施設など池袋の主要スポットをつなぐ電気バス「IKEBUS(イケバス)」を、11月2日(土)から貸切バスとして、そして11月下旬から決まった路線を定期的に運行する路線バスとして運行開始しました。運行開始に先駆け、11月1日(金)に中池袋公園にて、出発式を開催しました。

<https://travel.willer.co.jp/ikebus/>

●「グリーンスローモビリティ」等を活用した実証実験を開始【京急電鉄】

京浜急行電鉄株式会社、横浜国立大学および横浜市は、「グリーンスローモビリティ」(以下「グリスロ」)等を活用した実証実験を、本年も11月15日(金)から横浜市金沢区富岡エリアにおいて、地域交通課題解決を目的に開始しました。

京急沿線の横浜市金沢区富岡エリアは、急勾配な坂道が多く、バス停や鉄道駅へのアクセスが容易でない地域があるなど、交通課題を抱えた地域が存在します。

昨年に引き続き2度目となる本年の実証実験では、“登坂力に優れている”・“小型である”という特徴を活かした「グリスロ」に加え、地域の要望をもとに「乗用車」を活用したオンデマンドサービスを提供します。

https://www.keikyu.co.jp/company/news/2019/20191113HP_19164CK.html

●パーク&ライド実証実験の結果を鑑み、高速船を継続運航します【第一マリンサービス】

第一マリンサービスが運航する那覇・北谷・恩納・本部を結ぶ高速船「海からぐるっと Express」は、今年度の運航を11月15日で終了する予定でしたが、10月7日から実施した「那覇—北谷間パーク&ライド実証実験」の結果を鑑み、11月19日(火)より2020年3月31日(火)までの期間、那覇—北谷間のみ運航を継続しています。

運航は一日5往復。朝・夕の時間帯に加え、昼間の時間帯を増便し、北谷からの通勤や北谷—那覇間の観光に便利な運航ダイヤです。国道58号線の渋滞を横目に、那覇～北谷間を約30分で結んでいます。

<https://daiichi-marine.com/>

●札幌市における地域経済の活性化に向けたモビリティ向上について ～「さっぽろ観光あいのりタクシー」の実施～【NTT】

一般社団法人札幌ハイヤー協会、互信ホールディングス株式会社、さわやか無線センター昭和グループ、認定NPO法人ポロクル、日本電信電話株式会社は、2019年1月25日から実施致しました「さっぽろ観光あいのりタクシー」の実証実験により、観光先の増加や夜間観光の需要外国人観光客をはじめとする観光客の市内周遊性の向上が見込まれました。今回、地元商業施設を新たに乗降ポイントに追加し、札幌市における地域経済の活性化に向けたモビリティ向上に関する取組みを2019年10月16日より、共同で実施致します。

本事業は、近年急増している外国人観光客をはじめとする観光客の市内周遊において、喫緊の課題となっている二次交通やキャッシュレス決済、コミュニケーション問題を解決し、観光客の満足度を高め、消費拡大や再訪意欲の向上を図ることを目的としております。

なお、観光客向けの相乗りタクシーとサイクルシェアリングサービスを合わせて有料で提供するの国内初の取り組み(2019年10月16日時点)となります。

<https://www.ntt.co.jp/news2019/1910/191016a.html>

●浦和美園駅前にてスクーターシェアリング実証開始【UDCMi】

浦和美園駅を中心に大規模な新市街地形成が急速に進む美園地区ですが、まちの発展・成熟に伴う人口増や集客施設立地の進展、あるいは多様化するニーズ・ライフスタイルに対応した、誰もが移動しやすい交通体系を構築していくことが急務のまちづくり課題となっております。

アーバンデザインセンターみその(UDCMi)では、こうした地域課題への対応策の一環として、既存の公共交通網を補完しつつ天候・行先等の状況に応じ最適な交通モード選択を支援する「モビリティ・シェアリング」サービスが本地区で各種取り組まれてきましたが…この度、新たに【スクーター】のシェアリングが実証実験サービスとして開始しました。

<https://www.misono-tm.org/udcmi/info/news/7313.html>

●EV 駆動用バッテリーのリユース技術を活用したバーチャルパワープラント実証試験について【中国電力株式会社】

中国電力株式会社、株式会社明電舎、マツダ株式会社は、電気自動車(EV)の駆動用バッテリーをリユースした定置型蓄電池システムの構築、およびこれを活用したバーチャルパワープラント(VPP)実証試験に共同で取り組むこととし、共同研究契約を締結しました。VPPは、一般家庭や工場などが保有する再生可能エネルギー、EV、蓄電池等の多数の分散型電源を束ねて、あたかも1つの発電所のように統合・制御するもので、送配電事業者の需給調整など、電力システムに関する様々なサービスへの展開が期待されています。

<http://www.energia.co.jp/assets/press/2019/p191017-1a.pdf>

●期限前償還条項付無担保社債(グリーンボンド)の発行に関するお知らせ【群馬銀行】

群馬銀行は、第5回期限前償還条項付無担保社債(実質破綻時免除特約及び劣後特約付)(グリーンボンド)に関する訂正発行登録書を10月24日付で関東財務局長宛に提出いたしました。なお、地方銀行によるグリーンボンドの発行は国内初となります。

<https://www.gunmabank.co.jp/info/news/20191024.html>

●タイにおける環境・リサイクル事業を大幅に拡充【DOWA エコシステム】

DOWA エコシステム(株)は、今回、タイの3子会社(Waste Management Siam 社、Bangpoo Environmental Complex 社、Eastern Seaboard Environmental Complex 社)にお

いて、有害廃棄物の焼却処理を拡大するとともに、新たにハイブリッド自動車や電気自動車用の廃電池リサイクルを開始します。また、廃棄物発電への燃料供給も開始します。これらにより、タイにおける環境・リサイクル事業を大幅に拡充し、多様化する廃棄物処理・リサイクルニーズに応えることが期待されます。

<https://www.dowa.co.jp/jp/ir/news/2019/20191023.html>

●EV スマート充電サービスの提供に向けて Driivz、日東工業と協業開始【エネット】

株式会社エネットは、北米・欧州に幅広く EV 充電プラットフォームを提供する Driivz、EV 用普通充電器を製造する国内大手の日東工業株式会社と連携し、自治体や企業向けに提供予定の「EnneEV(エネーブ:EV スマート充電サービス)」の開発を目的とした協業を開始します。

https://www.ennet.co.jp/news/detail?news_id=155

●フランス環境エネルギー管理庁と公的投資銀行、グリーンエネルギー部門の成長を支援【フランス 環境エネルギー管理庁】

フランスの環境エネルギー管理庁(ADEME)と公的投資銀行は、エネルギー関連企業を支援してグリーンエネルギーへの移行を促進する「エネルギー移行アクセラレータ」プログラムを開始しました。グリーンエネルギー部門は市場規模 800 億ユーロ、過去 10 年で 130%の伸びを示す成長産業であり、今後の発展が期待される中小の企業も多数存在します。今回のプログラムには技術調査、技術開発、エネルギー生産、サプライヤーなどの分野から 28 の参加企業が選抜されています。プログラムは今後 2 年間、診断・助言やセミナー、ワークショップを通じて各企業の能力強化を図り、戦略的検討や行程表作成の支援、分野のリーダー間や専門家との関係構築も行います。参加者には国内のバリューチェーン、各企業・製品間の連携と相互作用、各種設備機器などについての理解を深め、相乗効果をあげられる領域や、国際市場を含めた市場機会を探る場となります。

<https://presse.ademe.fr/2019/10/lademe-et-bpifrance-lancent-lacceleateur-transiti-on-energetique.html>

●アメリカ環境保護庁、貨物運送業における燃費改善と排出削減を表彰【アメリカ環境保護庁】

アメリカ環境保護庁(EPA)は、燃費改善と排出削減で成果を上げた貨物運送業者を称えるスマートウェイ・エクセレンス賞の 2019 年の受賞者 72 社を発表しました。同賞は、トラック運送業者や物流業者等が環境への悪影響が最も低くエネルギー効率が高い方法で貨物を運送し、公衆衛生の改善や大気汚染の軽減に寄与することを促進するものです。同賞を通じて企業の持続可能性や社会的責任への取組を示すことで、事業環境において競争力と持続可能性を高めることにもつながります。選考は前年の環境パフォーマンスのみに基づいて行われました。多くの初の受賞者とともに、前回の受賞からさらに環境パフォーマンスを上げた

受賞者もいました。2004 年以來、同賞の取組を通じて大気汚染物質排出 1 億 3400 万トン以上が削減され、石油を 2 億 7900 万バレル以上、燃料費 375 億ドルの節約になりました。これは 1800 万世帯以上の年間エネルギー使用量に相当します。受賞者は 2019 年 10 月 7 日にカリフォルニア州サンディエゴで開催された米国トラック協会の会合で表彰されました。

<https://www.epa.gov/newsreleases/leading-shippers-carriers-and-logistics-firms-earn-epa-distinction-efficiency>

4. イベント情報

●自動車環境セミナー ～次世代に向けたクルマの在り方を考える～

日時:2019年12月4日(水)14:00～16:30

場所:グランフロント大阪北館10階

主催:大阪自動車環境対策推進会議、大阪府、大阪市、堺市

<https://www.city.osaka.lg.jp/hodoshiryo/kankyo/0000484236.html>

●エコプロ2019 ～持続可能な社会の実現に向けて～

日時:2019年12月5日(木)～7日(土)10:00～17:00

場所:東京ビッグサイト 西・南ホール

主催:(一社)産業環境管理協会、日本経済新聞社

<http://eco-pro.com/eco2019/>

●スマートモビリティチャレンジ 地域シンポジウム

日時・場所:(四国)2019年12月10日(火)13:00～

香川県高松市 サンポート高松 かがわ国際会議場

(中国)2020年1月21日(火)13:00～

広島国際展示場会議室「コスモス」

(東北)2020年1月24日(金)13:00～

浪江町地域スポーツセンター サブアリーナ

(中部)2020年1月31日(金)13:00～

愛知大学 名古屋キャンパス グローバルコンベンションホール

主催:経済産業省、国土交通省

<https://www.mobilitychallenge.go.jp/symposium>

●グリーン・イノベーション 研究成果企業化促進フォーラム

日時:2019年12月11日(水)14:00～18:00

場所:ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター(大阪市北区)

主催:関西広域連合

<https://www.kouiki-kansai.jp/hodo/4494.html>

●第17回 ITS シンポジウム 2019

日時:2019年12月12日(木)～13日(金)

場所:石川県地場産業振興センター

主催:金沢大学、(特非)ITS Japan

http://www.its-jp.org/event/its_symposium/17th2019/

●JAF エコドライブ運転実技講習会 広島会場

日時:2019年12月14日(土)12:30~16:30

場所:広島運輸支局(広島市西区)

主催:(一社)日本自動車連盟(JAF)広島支部

<http://www.tb.mlit.go.jp/chugoku/content/000103657.pdf>

●第17回アジア太平洋地域 ITS フォーラムブリスベン 2020

日時:2020年5月25日(月)~28日(木)

場所:Brisbane Convention & Exhibition Centre QUEENSLAND

主催:ITS Australia

http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid_110/katsudou2014tabid_110katsudou2014tabid_110ap_forum17/

5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ

<http://www.green-m.jp>

- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/ecommuters/ecommuters_top.html

- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！

配信申込はこちらから

<http://www.mm-education.jp:80/magazine.html>

- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon_offset/carbonoffset_system.html

- 電動小型低速車に関する情報を掲載しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/nev/nev_top.html

- 「運輸・交通と環境」を発行しています！

(日本語版)

<http://www.ecomo.or.jp/environment/unyukotsutokankyou/index.html>

(英語版)

<http://www.ecomo.or.jp/english/tej.html>

- 記事募集中！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。

EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: magazine@ecom.o.or.jp(担当: 中道)

発行: 環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会事務局

(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

https://p.bmb.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo

EST ポータルサイト: <http://www.estfukyu.jp/>